

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水1211 番地 (電話) 0993-35-0220
自己評価作成日	平成29年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームを母体とした併設施設であり法人嘱託医・看護師による医療面の連携・協力体制や同一敷地内の併設事業所である、デイサービスセンターやホームヘルプステーション、在宅介護支援センター等との連携・応援体制も整っています。
- ・入所者と一緒にプランターで花を育てたり、農園で季節の野菜を栽培し収穫した野菜を使った料理を楽しんでいます。
- ・入所者一人ひとりが役割を持ち、力を発揮することで満足感を得るとともに、趣味や余暇活動を通して、日々の生活に楽しみや喜びを感じられるよう支援しています。
- ・職員一人ひとりが入所者の「その人らしい生活」とは何かということを常に考えながら、個々のペースに合わせて関わりを持つよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体である特別養護老人ホームの敷地内に建てられた在宅介護支援センター、デイサービス、訪問介護ステーションなど関連施設と併設された2ユニットのグループホームである。
- ・法人マスコットのゆるキャラと一緒に地域行事へ参加している。法人行事への地域住民の参加や総合避難訓練への協力、小・高校生との交流推進、災害時の避難場所として施設の申し合わせなど、積極的に地域と交流を行っている。
- ・系列の医療施設・法人の看護師との24時間医療連携体制が整っており緊急時の連携が図られている。
- ・入所者の楽しみの把握のため「年間行事、食事、レクリエーション」のアンケートが実施され、一人ひとりを大切にしたい取り組みがされている。
- ・職員はコミュニケーションが良く、入居者の尊厳を大切にして「その人らしい生活」ができるように、心一つにして支援サービスに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	従来の「信頼と安心の創造」に加え、全職員で意見を出し合い、新しく法人理念を作った。理念は家族も確認できるよう玄関に掲示し、ミーティングの時は職員で復唱している。また認知症介護について勉強会を実施し、人権を尊重した基本的ケアの実践につなげている。	職員全員で考えた地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、玄関や会議室・スタッフルーム等へ掲示し、朝礼に唱和したり、ミーティングで理念に沿ったケアの振り返りを行っている。勉強会を通して利用者の人権を尊重した基本的ケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徳光苑30周年記念で生まれた、ゆるキャラの「TOKKOU君」と「IMOKOちゃん」と一緒に、地域の行事に参加したり、施設の行事などへの参加を呼びかけ、地域交流を図っている。またデイサービスと連携して、毎年、地域の小学校や高校との交流も推進している。	法人として自治会に加入し、回覧板や有線放送で情報を共有している。法人のゆるキャラと一緒に地域行事へ参加したり、法人で開催している秋祭りやリハビリ大会・敬老会などに地域住民の参加が多い。園児や児童・学生との交流も行われたり、地域住民からの差し入れなど、日頃から地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人が主体となり、家族や地域住民を対象とした勉強会を開催している。またリハビリ大会では地域住民や民生委員等を招待しており、認知症ケアについて地域とのつながりを強めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの生活状況やひやり・はっと、地域交流行事、外部評価の結果等の報告を行い、委員からの意見をサービスの向上に役立っている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や活動報告・ヒヤリハット・事故報告等を行い、参加者から確認や対策のアドバイスや行政からの連絡事項、地域の状況、農園の作物の提案などが出され、意見交換の場となり、運営に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や市のグループホーム連絡協議会を通して、最新情報を提供してもらい、情報交換を行っている。また運営上の疑問点等がある時には、その都度、市の担当者へ相談している。</p>	<p>市担当者とは日頃から連携を密にしている。書類更新や相談事があった時は、窓口に出向いたり、電話でアドバイスをもらったり相談している。運営推進会議では、情報を伝え意見や助言をもらっている。グループホーム連絡協議会や市の研修会等に、積極的に参加して、協力関係を築いて取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止推進委員会を設置し、定期的に会議を開催し、ケアの内容を確認している。また内部研修を行い、身体拘束ゼロへの理解を持ち、拘束をしないケアを実践している。</p>	<p>マニュアルがある。月1回の法人全体で身体拘束廃止委員会を開催し研修している。職員には伝達研修を行って具体的な行為の事例を示し、ユニット毎に勉強会をしている。言葉の拘束も含め日頃から拘束しないケアを意識づけている。玄関にはセンサーを設置しているが、利用者が外出希望の時は話をしたり、一緒に散歩をして取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間計画に虐待の防止についてのテーマを設け話し合い、虐待のないより良いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の年間計画に権利擁護に関するテーマを設け、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約時は、入所者や家族等に不明な点がないか確認しながら、利用契約書・重要事項説明書の説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、入所者や家族から意見や要望を聞き、運営に反映させている。 ・家族が面会に来た時は積極的に関わって情報交換し、話しやすい雰囲気作りに努めている。 	利用者からは日常の関わりの中で意見を聞いている、家族からは、面会時や毎月の情報報告・3ヶ月毎の「遊花里」メール・家族会・運営推進会議等で把握する機会が多い。ドライブや買い物等の要望など運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、ユニットミーティングを開催して意見を交換し、会議録を提出、報告するシステムを採用している。 毎月、管理職会議を開催し、各事業所の管理者から現場の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。 	<p>申送りや毎月のユニットミーティング等で意見や提案を聞く機会があり、年3回理事長の個人面談もある。管理者は管理者会議で、職員の意見を話す機会があり、出された意見は運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 人事考課で自己評価及び管理職評価システムを採用し、スキル向上に取り組んでいる。 職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加を推進し、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>年間の内部研修計画書を作成し、それに沿って実施している。また外部研修後は復命書を作成、ミーティングの中で発表し、皆で共有できるようにしている。</p>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>県・地区のグループホーム連絡協議会に入会し、他施設の職員と意見交換や交流する場を設け、また研修会への参加等、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅介護支援事業所や家族等と連携を図って情報を収集し、入所予定者が困っていることや不安に思っていること等を聞き、安心してサービスを利用できるよう相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予定者の家族と面会し、これまでの経緯を聞き、家族の気持ちに寄り添いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、法人全事業所の管理職会議の中で、他事業所の管理者と情報を共有して必要な支援を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活で培ってきた知識や知恵を生かして、郷土料理や野菜の作り方等を教えて頂きながら、入所者と職員が暮らしを共にする関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ定期的に「ゆうかりメール」を郵送し、写真付きで個々の生活状況を報告している。また面会時には本人の近況を伝えるとともに、家族の要望や意見を聞き、共に入所者を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の理解や協力に基づき、自宅や希望された場所への外出を支援している。 ・電話や手紙で交流ができるよう守秘義務に注意しながら働きかけている。 	入居時のアセスメントや家族からの情報、日常会話から把握している。地域行事への参加、墓参りや自宅周辺へのドライブ、電話の取次ぎや年賀状、暑中見舞い等の支援を行っている。家族や友人が面会に来やすい環境づくり、訪問理美容も複数ある。兄弟や友人の訪問があり、お茶を出してゆっくりしてもらっている。書道、アロママッサージ、化粧、趣味の活動等も継続し途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入所者が孤立しないよう間に入り、挨拶や会話を補助し、気持ち良く支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設へ移られた利用者の所へ面会に行ったり、その家族から相談があった時には、情報提供や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から職員間で情報を共有し、個々の思いや意向の把握に努めている。意思の表出が難しい方については、家族からこれまでの生活歴や暮らしぶりを聞き、本人の思いを推察している。また定期的に意見交換会を実施し、入所者の希望や意見等を聞く機会を設けている。	日常会話や毎月行われる利用者との意見交換会において思いや意向の把握に努めている。意思表示の難しい利用者については、家族からの情報や生活歴から本人の思いを推察し本人本位に検討している。入浴の時や夜間には、ゆっくりと懇談をして思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家での過ごし方など、入所前に家族や居宅介護支援事業所等から聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている。入所後は、関係を築いていく中で得た情報を職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の一日の過ごし方や生活リズムを把握して、自分でできること・サポートが必要なことを見極め、個々に合わせた支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・本人、家族の思いや意向を確認し、職員間で意見を出し合って介護計画を作成している。作成後は、家族に説明しサインをもらっている。</p> <p>・毎月の介護支援経過、3ヶ月に1回のモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>本人・家族の思いや意向を確認し、担当者が中心となり担当者会議を開き、主治医の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、見直しは6ヶ月で実施している。状況が変化した時はその都度、見直しして現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・入所者の日々の様子や状態の変化、気づきなどを記録し、ケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。また申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々状況に合わせ、受診の介助や入・退院の送迎等を支援している。また同一敷地内の特養やデイサービス等との交流・連携に努め、人間関係の広がりや楽しみごとを増やしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の介護体験や民生委員のボランティア等を受け入れ、交流を深めている。また総合防災訓練を行い、火災の時の初期消火・避難誘導等について分遣所の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回、嘱託医の往診がある。また、24時間体制で連絡ができるようになっており、緊急な対応もできている。 ・本人、家族が選ぶ医療機関がある場合は、そこに受診できるよう協力している。 	本人や家族の希望を聞き、嘱託医が主治医になっている。毎週2回往診がある。歯科は往診で対応し、皮膚科は家族が同行している。24時間医療連携体制が整っており、適切な医療を受けている。受診結果は家族に電話で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師、または併設施設の看護職員と連携しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は介護サマリーを作成し、入所者が安心して治療を受けられるよう入院先へ情報提供を行っている。また入院先へ面会に行ったり、家族やMSWと連絡を取りながら病状の把握に努め、嘱託医へ経過報告し、早期に退院できるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した入所者に対しては、家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを十分に説明するとともに、嘱託医へ相談して状態に応じた対応を行っている。</p>	<p>指針・マニュアルがあり、入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医を含め話し合いを行い、本人家族の意向に沿った対応を行っている。希望があればターミナルケアまで対応可能である。医療機関や特別養護老人ホームの希望が多く、法人全体で対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、実践力を身に付けている。不明な点はその都度、看護師へ指導を仰ぎ理解するよう努めている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施している訓練では火災だけでなく、地震・津波・水害なども想定し行っている。 ・緊急連絡網を作成し、法人全体で夜間招集訓練を行っている。 ・地区の公民館と災害時緊急避難指定施設として使用できるように申し合わせができています。 	<p>法人全体で年2回、総合防災訓練を消防署立ち合いのもと実施、地域住民の参加もある。毎月の訓練では火災・地震・津波など想定し実施している。災害時は法人特別養護老人ホームに水・食料・缶詰・オムツ・医療用備品等、用意している。レトルト食品は年1回全員で試食している。法人全体で緊急連絡網を作成し年2回、夜間招集訓練を実施している。地域の緊急避難指定施設となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>更衣・排泄時はカーテンやドアを閉めるようにし、一人ひとりのプライバシー・自尊心を傷つけないよう配慮した声掛けや対応をしている。</p>	<p>マニュアルを基に、法人全体で講師を招いての処遇や人権擁護・プライバシー保護についての研修会を実施している。毎月の勉強会で日常のケアについて振り返り行っている。入室時のノックや入浴・排せつ介助時などプライバシーや自尊心を傷つけないように配慮した声かけや対応を心がけている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>意見交換会や日々の関わりの中で入所者の希望など聞く機会を設けている。また日常生活のあらゆる場面で、自分で選択し決定できるよう支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日その時々の体調によって、個々のペースに合わせた生活をして頂けるよう心掛けている。また、その日をどのように過ごしたいか、入所者の意向を確認しながら支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>起床後の洗顔や整髪、身だしなみを整える支援を行っている。入浴の際は、本人がその時の気分に合わせて洋服選びができるよう支援している。また行事や外出の際は、お化粧などおしゃれをして出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者と一緒に食事の準備や片付け等を行っている。また家庭菜園で収穫した野菜を入所者と一緒に調理して、食卓に出している。 ・嗜好調査を行い、食の好みや満足度を把握し、食事の時間を楽しく過ごせるよう工夫している。 	<p>年1回、嗜好調査を実施、代替え食や食事形態の工夫を行っている。菜園で収穫した野菜や旬の食材を使用した献立となっている。行事食や花見弁当、おやつ、誕生会、クリスマスケーキを一緒に作ったり、能力に応じて台ふきや食器洗い、食事の盛り付けなど手伝いをもらいながら食事の時間を楽しく過ごせるよう工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士の指導の下、栄養管理している。 ・食事・水分チェック表を用いて、摂取量を把握している。状態に応じて声かけや介助を行い、また時間をずらしたり、好きな物を勧めたりして工夫している。 	/	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に義歯の洗浄や歯磨きの声掛け、誘導を行い口腔ケアに努めている。 ・義歯の不整合や口腔内に異常が見られた時は、協力医療機関の歯科医に往診を依頼している。 	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、入所者の排泄サインを見逃さないように気を付け、声掛け・トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し、排泄サインを見逃さないように注意し、日中は声かけの誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間は状態に応じてポータブルトイレやパット交換で対応している。日中は布パンツの利用者が多く、パットの種類の検討をしたり、紙パンツから布パンツに改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便パターンを把握し、便秘がちな入所者に対しては、好みの飲み物を準備して水分摂取を勧め、昼間の活動を促しながら自然排便へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を楽しみにしている入所者が多く、一人ひとりの入浴習慣や好みの温度に配慮しながら支援している。	入浴は週2回、希望があればいつでも入浴可能となっている。室温調整や湯の温度を調整している。季節により入浴剤を使用している。拒否のある利用者には時間や声かけの工夫を行い、状況に応じて清拭や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を通して生活のリズムを作り、安眠につながるよう支援している。 ・昼寝や就寝時間は自由であり、一人ひとりの生活習慣に合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬の効能や副作用等を確認しており、服薬支援を行っている。症状に変化が見られる時は看護師へ報告し、嘱託医の往診や必要に応じて受診等の体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握し、それを活かした役割(食事の盛り付け・裁縫等)や趣味活動(生け花・習字等)、レクリエーションなどを支援している。また、その日の気分に合わせて嗜好品を楽しむよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に出かけたり、庭に出て青空のもとで食事やお茶を楽しんでいる。また、意見交換会の中で外出先の希望を聞き、入所者の馴染みの場所へ出かけたり、地元のお店で買い物を楽しむことができるよう支援している。	日常的には、希望にそって公園や敷地の芝生で散歩したり、芝生でのテーブルを囲みお茶を飲んで楽しんでいる。年間計画で、池田湖やフラワーパーク等へ外出している。希望により馴染みの場所へ出かけたり、地元の店に買い物に行く等支援している。家族と一緒に墓参りや外出・外泊などを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者、家族との相談の上、それぞれの希望に応じて金銭管理の支援をしている。また買い物に行った際は、入所者自身が支払いをできるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から荷物が届いた時は、お礼の電話を掛けたり、希望に応じて入所者自ら電話をしている。また、家族に対して手紙を書くことを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下等には季節の花々や小物を飾り、四季を感じられるよう工夫している。また台所の音や香りなど生活感があって、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>共用空間は広く天井は高く採光に工夫がある。掃き出し窓で明るく空気清浄機が置かれ、室温湿度も管理されている。季節の作品や手芸作品が飾られ、オープンキッチンで調理の音や香りなど生活を感じられ、利用者の動きがよく見える。テーブルに生花が飾ってあり椅子やソファでゆっくりくつろげて、居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファがくつろぎの場になっており、気の合う入所者同士で思い思いに過ごしている。また独りになりたい時は、玄関ホールにテーブルと椅子を置き自由に過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具やテレビ等を居室へ持ち込んでいただけるよう、家族に働きかけている。また、家族の写真や自分の作品など好みの物を飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室にはベット・洗面台・床頭台・クローゼット・掲示板が備え付けられている。掲示板にはそれぞれ家族の写真や手芸作品・カレンダーが飾られている。家から持ち込まれた時計・テレビ・家族の写真・自作品・表彰状等が置かれている。入口は玄関風で窓は大きく明るい。たたみの部屋もあり居心地よく過ごせる環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置して、利用者一人ひとりの身体機能に合わせた動きができるようにしている。また居室やトイレの場所が分からない方については、入口の所に表札や貼り紙をして混乱を防いでいる。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない